

コアとなる事業の概要3つ（事業のタネ）

活動地域・団体名：小田原市

今後地域の将来像を実現するために必要と考えられる事業を3つ書いてください。

1 事業名称：「おだわら森里川海」イノベーション事業			
事業概要	事業の内容		現時点で想定される課題・ボトルネック
本市の生活や経済の基盤を支える森里川海などの地域課題の解決に資する事業（コンテンツ）を創出する。事業の創出にあたっては、異業種他分野の人材が集まるオープンイノベーションの場を形成し、人と人、資源と資源をつなぎ合わせることで、新たな価値を創造する。 （具体的な事業） ・獣害について、昨年度から実施している「わなオーナー制度」は、獣害×狩猟体験＝食料廃棄問題の普及啓発といった資源の掛け合わせにより新たな価値を創出する。さらに森里川海ストーリーの中では、「猟」と「漁」の掛け合わせによる新たな展開を目指す ・放棄竹林問題について、伐採竹を、建築部材（竹）や生ごみ堆肥化のための段ボールコンポストの発酵促進剤（竹炭）として利用する。この利益は、竹林の適切な整備にかかる費用に充当する 等 なお、創出される事業（コンテンツ）は、2. の事業においてブランディングを図っていく。	①なぜこの事業をやるのか（Why）	森里川海などの地域資源を事業（コンテンツ）化し、多くの人に関わる（利用する・管理する）機会・場を作ること、資源を持続可能に活用・管理する仕組みを再構築するため	・より多くの課題解決に資する事業（コンテンツ）が創出のため、地域資源のつながりを作るネットワークの拡大 ・オープンイノベーションの場の設定、コーディネートを行う実施主体（中間支援組織等）の確保
	②どの地域資源を活用するか	耕作放棄地、放棄竹林、獣害、農林漁業、農林水産資源、空き家、若者等 ※課題も資源と捉える。人材資源も含む。	
	③商品・サービスの具体的な内容は何か（What）	新たな価値を持った課題解決事業（コンテンツ）	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
	④誰がこの事業の主たる担い手か（Who）	中間支援組織（組織構築が完了するまでは、小田原市）、（新事業研究会研究員、おだわら環境志民ネットワーク等）、事業創出の支援は小田原箱根商工会議所と連携	
	⑤この事業により地域内で何が循環するか またはどのような循環が起こるか	・人材、事業化ノウハウ（オープンイノベーションの場の形成による） ・地域資源（個々の事業が自立し、持続可能に運営されることによる）	

2 事業名称：「おだわら森里川海」ブランドマーケティング事業			
事業概要	事業の内容		現時点で想定される課題・ボトルネック
小田原にはすでに様々な取組や活動があり、都市近郊でありながら、様々な体験ができる可能性がある。本事業では、それらのコンテンツ（モノ・コト等）を統一コンセプト「おだわら森里川海」として束ね、複合的に価値を高められるようなブランディングを行い、域内の魅力再発見によるモノ・コトの地産地消を促進するほか、域外に向けては、小田原が単なる通過点ではなく、「目的地」となることを目指す。これにより、コンテンツ利用の収益のほか、利用に伴う波及的な消費活動、利用を通じた関係人口の獲得に期待ができる。 将来的には、ブランド認定されたモノ・コト消費による利益の一部を本市の資源である森里川海の保全活動等に充てることで、地域の課題解決も同時に図っていく（R1年度から、収益の一部を地域課題解決活動に活用する地域新電力の取組も開始）。	①なぜこの事業をやるのか（Why）	点在する様々な取組を束ね、一体的に販売していくことで、利用（消費）の拡大を図る	・過年度事業において大学連携により作成した「おだわら森里川海」ブランドロゴについて、市内外の消費者への訴求力の強化 ・運営主体（中間支援組織等）の確保
	②どの地域資源を活用するか	小田原の森里川海すべての資源を活用した商品（モノ）、体験（コト）例）メダカのすみかを守る田んぼの米、耕作放棄地を復活させたみかんジュース、獣害対策の解体体験・ジビエ試食会、放棄竹林の伐採・竹炭づくり等	
	③商品・サービスの具体的な内容は何か（What）	森里川海ブランド認定、統一的な販売促進等のサービス	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
	④誰がこの事業の主たる担い手か（Who）	中間支援組織（組織構築が完了するまでは、小田原市） ※地域商社やDMO的なイメージ	
	⑤この事業により地域内で何が循環するか またはどのような循環が起こるか	人と資金（当面：コンテンツ参加・購入→地域資源の活用・保全の強化→コンテンツの増加→地域資源の活用・保全の多様化→ブランドの強化 将来：ブランド認証料を地域課題の解決に還元→課題解決活動の強化）	

3 事業名称：「おだわら森里川海」プロモーション事業			
事業概要	事業の内容		現時点で想定される課題・ボトルネック
本市が実施する「脱炭素型地域交通モデル構築事業（EVを活用した地域エネルギーマネジメント事業）」と連携し、おだわら森里川海オールインワンパッケージのコンテンツをつなぐ2次交通として活用。 今年度構築した地域循環のスキームに、新たにMaaSなどデジタルプラットフォームとの連携等による先進のトレンド・テクノロジーを加え、さらなる持続性の強化を図るとともに、ブランディング化した地域の森里川海コンテンツの強みとすることで、都市域などターゲットへの効果的な訴求、プロモーションを図っていく。	①なぜこの事業をやるのか（Why）	地域の普遍的な価値に新たなテクノロジーを掛け合わせることで、より強固な地域好循環の創出を企図	・都市域とつなぐ公共交通との連携 ・シームレスな予約・決済など、より利便性の高い手段の提供 ・実施主体の確保
	②どの地域資源を活用するか	脱炭素型地域交通モデルのEV（再エネ最大活用）、事業1・2で磨き上げたコンテンツや、それに関わる人	
	③商品・サービスの具体的な内容は何か（What）	地域のコンテンツを森里川海ストーリーでパッケージング化したもの	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
	④誰がこの事業の主たる担い手か（Who）	小田原市、EVシェアリングは株式会社REXEVが担う	
	⑤この事業により地域内で何が循環するか またはどのような循環が起こるか	ヒト・モノ・カネ 単一地域内に留まらず、都市域との広域的なヒト・モノ・カネの循環が創出される	